



2021年9月13日
農 研 機 構
国立大学法人北海道大学
一般社団法人日本科学飼料協会

ムーンショット型農林水産研究開発事業 シンポジウム 「牛の生産性向上とメタン抑制の両立の実現に向けて」を開催

ポイント

- ・ 農研機構は10月7日(木)、ムーンショット型農林水産研究開発事業の研究課題「牛ルーメンマイクロバイオーム完全制御によるメタン80%削減に向けた新たな家畜生産システムの実現」に関するシンポジウムをオンラインで開催します。
- ・ 牛のゲップに含まれるメタン排出削減の取り組みと、期待される成果について発表します。

農研機構は、農林水産省の「みどりの食料システム戦略」で位置付けられた温室効果ガスの削減に資するための様々な研究開発を行っており、本研究課題について、牛メタン削減コンソーシアムの構成員として、2050年までに牛の消化管発酵由来のメタン産生量の80%削減と乳・肉生産性10%向上を可能とする、持続的な家畜生産システム開発における現在の取り組みについて発表する、シンポジウムを下記のとおり開催します。

本シンポジウムでは、メタン削減を実現するための飼料資源開発、ルーメン微生物研究、ルーメン発酵モニタリングシステム開発について発表します。また、これらの研究の実現の可能性、海外や各分野からの期待についてメッセージを頂きます。併せて、アンケートにより削減技術などへのご意見を集約し、プロジェクト成果資料作成の参考といたします。

記

- 日 時 2021年10月7日(木) 13:00~16:00
開催方法 オンライン開催 (Zoomウェビナー)
主 催 牛メタン削減コンソーシアム
共 催 生物系特定産業技術研究支援センター
国立大学法人北海道大学
農研機構畜産研究部門
一般社団法人日本科学飼料協会
定 員 300名規模
申込方法 以下の北海道大学のホームページから、申込みフォームにてお申し込みください。
北海道大学ウェブサイト URL
<https://anim-func-nutr.agr.hokudai.ac.jp/project/symposium-jp/>
当日の接続アドレスをご登録いただいたメールアドレスへ送信いたします。
申込期限 ありません。当日のシンポジウム終了まで申込可能です。

その他 詳細については別紙開催要領をご覧ください。なお、申し込み手続きの都合で、報道関係者を別枠とすることができませんので、参加ご希望の関係者は、できるだけ早めの参加登録をお願いします。

問い合わせ先

開催担当者：農研機構畜産研究部門 乳牛精密管理研究領域 佐々木 修
北海道大学 大学院農学研究院 小林 泰男
一般社団法人日本科学飼料協会 竹中 昭雄

広報担当者：農研機構畜産研究部門 研究推進室 粕谷 悦子
TEL 029-838-8292 e-mail koho-nilgs@naro.affrc.go.jp
北海道大学 大学院農学研究院 小池 聡
TEL 011-706-2812 e-mail skoike7@anim.agr.hokudai.ac.jp.
一般社団法人日本科学飼料協会 事務局 橋元 康司
TEL 03-3297-5631 e-mail hashimoto@kashikyo.or.jp

※農研機構（のうけんきこう）は、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構のコミュニケーションネーム（通称）です。新聞、TV等の報道でも当機構の名称としては「農研機構」のご使用をお願い申し上げます。

ムーンショット型農林水産研究開発事業

「牛ルーメンマイクロバイオーーム完全制御による
メタン 80%削減に向けた新たな家畜生産システムの実現」

シンポジウム：牛の生産性向上とメタン抑制の両立の実現に向けて

趣旨

ムーンショット目標5では、「2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ、ムダのない持続的な食料供給産業を創出」の実現が目的となっています。この目的を達成するため、農林水産省では「ムーンショット型農林水産研究開発事業」を実施しております。私たちは、本事業で開発する「食料供給の拡大と地球環境保全を両立する食料生産システム」において、研究開発プロジェクト「牛ルーメンマイクロバイオーーム完全制御によるメタン 80%削減に向けた新たな家畜生産システムの実現」に取り組んでいます。この取り組みは、農林水産省の「みどりの食料システム戦略」においてもゼロエミッション達成に向けた取り組みの一つとして位置付けられております。このプロジェクトでは、牛などの反芻動物に特徴的な消化器官であり、草食を支える最も重要な器官でもあるルーメンの機能を徹底的に解明し、人類と競合しない飼料資源を最大限に活用することによる、無理・無駄のない畜産物の増産と大幅なメタン抑制を目指しています。

この度、本プロジェクトの目指す社会や、研究開発の狙いと内容を広く紹介するシンポジウムを開催します。

開催概要

日時：2021年10月7日（木） 13：00～16：00

形式：オンライン方式（300名規模）

主催：ムーンショット型農林水産研究開発事業：「牛ルーメンマイクロバイオーム完全制御によるメタン 80%削減に向けた新たな家畜生産システムの実現」（牛メタン削減コンソーシアム）

共催：生物系特定産業技術研究支援センター
国立大学法人北海道大学
農研機構畜産研究部門
一般社団法人日本科学飼料協会

プログラム

1. 開催挨拶

北海道大学 教授 小林 泰男

2. 挨拶

- ・国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 理事長 久間 和生
- ・国立研究開発法人 物質・材料研究機構 理事 花方 信孝

3. 講演

「ムーンショット目標5の達成に向けて」ムーンショット型農林水産研究開発事業プログラムディレクター（PD）

東京農工大学 学長 千葉 一裕

「プロジェクト：牛ルーメンマイクロバイオーム完全制御によるメタン 80%削減に向けた新たな家畜生産システムの実現」

ムーンショット型農林水産研究開発事業プログラムマネージャー（PM）

北海道大学 教授 小林 泰男

「乳牛の生産性向上とメタン抑制」

元東北大教授 寺田 文典

（プロジェクト課題での取り組み）

「乳牛のメタン抑制に向けたルーメン微生物研究」

農研機構 真貝 拓三

「新たなルーメン発酵モニタリングシステム」

物質・材料研究機構 副拠点長 一ノ瀬 泉

「飼料メーカーから牛メタン抑制に期待するもの」

日本科学飼料協会 理事長 竹中 昭雄

4. 期待のメッセージ

・海外からの期待

駐日アメリカ合衆国大使館 農務官 Zeke M Spears

駐日オランダ王国大使館 農務参事官 Denise Lutz

タイ王国 カセサート大学 教授 Suriya Sawanon

・行政からの期待

農林水産省農林水産技術会議事務局 研究調整官 松本 光史

・産業界からの期待

全農飼料畜産中央研究所 所長 米倉 浩司

・畜産関係機関からの期待

中央畜産会 副会長 姫田 尚

5. 総括

北海道大学 教授 小林 泰男

6. 閉会

【事務局】

農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門

乳牛精密管理研究領域

佐々木 修

e-mail : sasa1@affrc.go.jp

TEL:029-838-8654 FAX:029-838-8606

〒305-0901 茨城県つくば市池の台 2